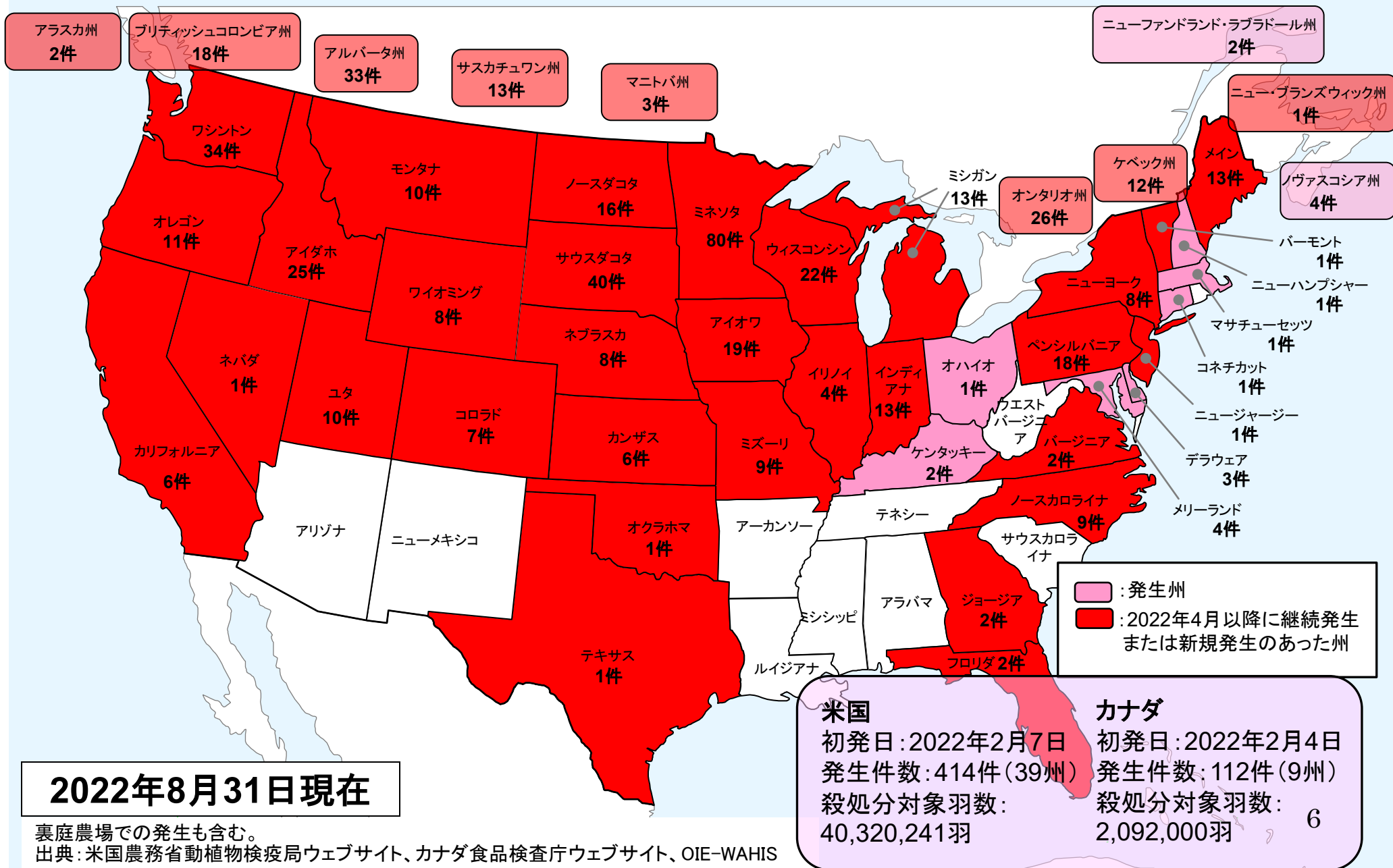


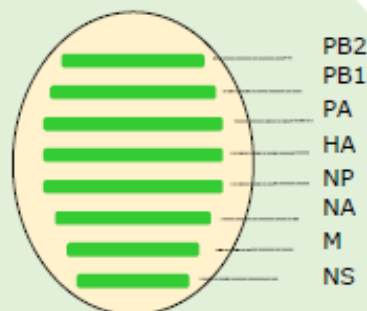
北米の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)



3. 分離されたウイルス株の特徴

H5N8亜型

2020-2021年
アジアH5N8グループ(20A)



- ① 秋田1例目 2021/11/10
- ③ 鹿児島2例目 2021/11/15



H5N1亜型

2020-2021年
欧州H5N8グループ(20E)



20E1



20E2

- ② 鹿児島1例目 2021/11/13
- ④ 兵庫 2021/11/17
- ⑤ 熊本 2021/12/3
- ⑥ 千葉1例目 2021/12/5
- ⑦ 埼玉 2021/12/7
- ⑧ 広島 2021/12/7
- ⑨ 青森1例目 2021/12/12

- ⑬ 鹿児島3例目 2022/1/13
- ⑭ 千葉2例目 2022/1/19
- ⑮ 千葉3例目 2022/1/26

- ⑩ 愛媛1例目 2021/12/31
- ⑪ 愛媛2例目 2022/1/4
- ⑫ 愛媛3例目 2022/1/4

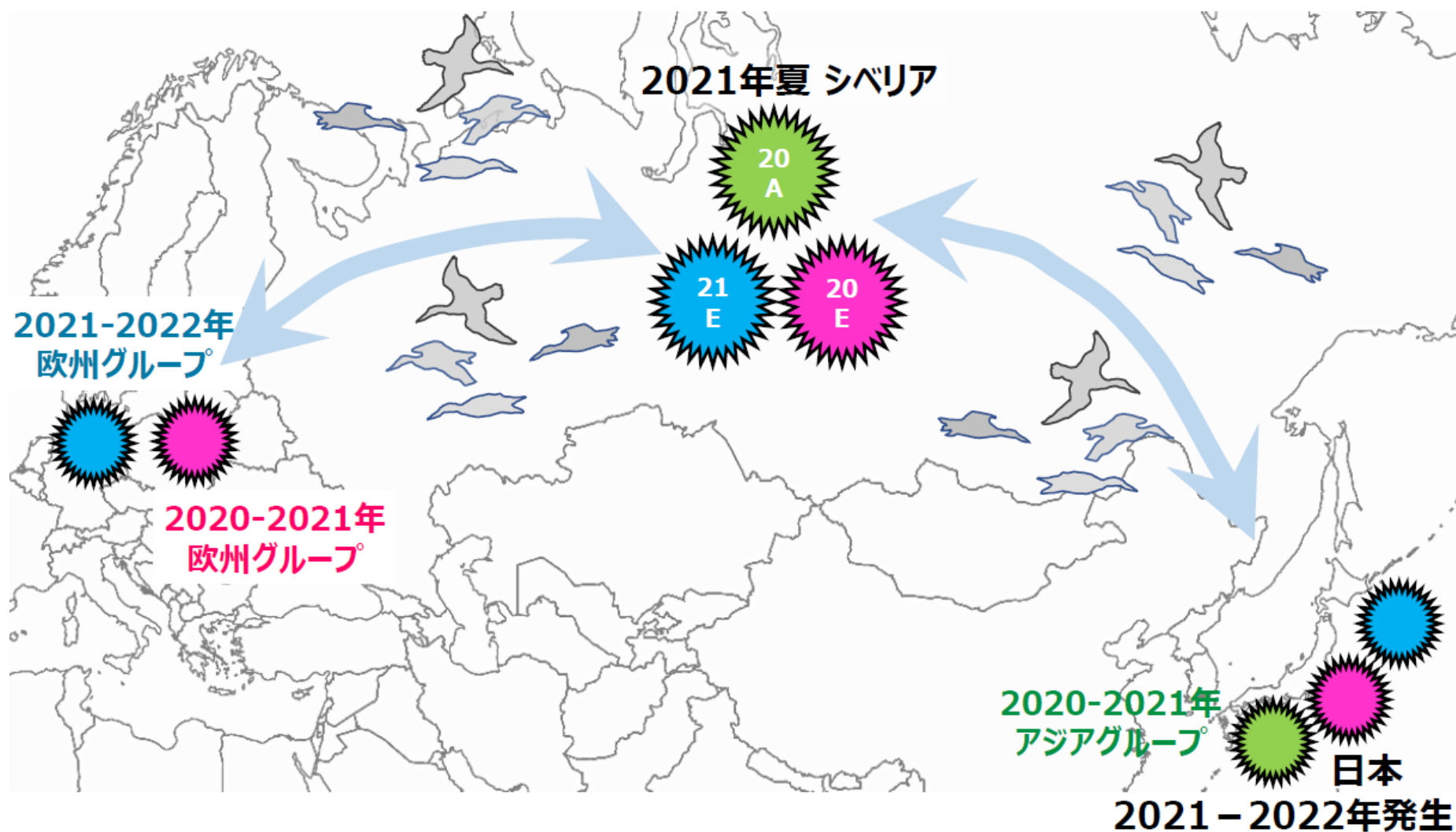
- ⑳ 北海道4例目 2022/5/14

2021-2022年
欧州H5N1グループ(21E)



- ⑯ 岩手1例目 2022/2/11
- ⑰ 宮城 2022/3/24
- ⑱ 青森2例目 2022/4/7
- ⑲ 青森3例目 2022/4/14
- ㉑ 北海道1例目 2022/4/15
- ㉒ 北海道2例目 2022/4/16
- ㉓ 秋田2例目 2022/4/18
- ㉔ 北海道3例目 2022/4/25
- ㉕ 岩手2例目 2022/5/11

日本へのウイルスの推定移動経路



4-1. 発生を踏まえた考察

1. 国内への侵入時期・経路

- ・昨シーズン・今シーズンの欧州由来株、昨シーズンのアジア由来株の計4種類が侵入
- ・国内侵入は少なくとも2021年11月8日
- ・異なる遺伝子型のウイルスがほぼ同時期に飛来する渡り鳥によりもたらされた可能性

2. 農場・家きん舎への侵入

- ・長靴交換等の衛生対策の不備、野鳥・ネコ・ネズミ等の野生動物の侵入がウイルス侵入の要因となった可能性
- ・冬鳥がほぼ渡去する5月でも家きん・野鳥で発生
- ・シーズン後半に東北・北海道で感染カラスの大量死
- ・留鳥であるカラスなどへの感染が農場への感染源となった可能性

4-2. 提言

【総論】

- 欧州・北米の発生から来シーズンも国内侵入が懸念
- 渡り鳥が本格化する10月までに各農場で対策することが重要

1. 農場へのウイルス侵入防止対策

- ・野生動物が近寄らないよう農場内・隣接水域の水抜き等
- ・誘因となる死亡家きんの適切な保管、防鳥ネットの設置

2. 家きん舎へのウイルス侵入防止対策

- ・出入時の長靴履き替え、手指消毒等の衛生管理の徹底
- ・野生動物侵入防止のため、家きん舎壁・天井の破損の修繕や換気口など開口部の金網等の設置

3. その他

- ・明確な死亡増が確認されづらいだちょう(エミューを含む)、あひる(アイガモ含む)は強く本病を疑わない場合でも検査を実施
- ・だちょうについては野鳥飛来シーズンは接触しない飼養管理
- ・野鳥間の感染拡大要因となる死亡野鳥の回収
- ・感染リスクの把握のため農場周囲で見られた死亡野鳥の検査

豚熱 概要

豚熱の発生状況と疫学調査結果について

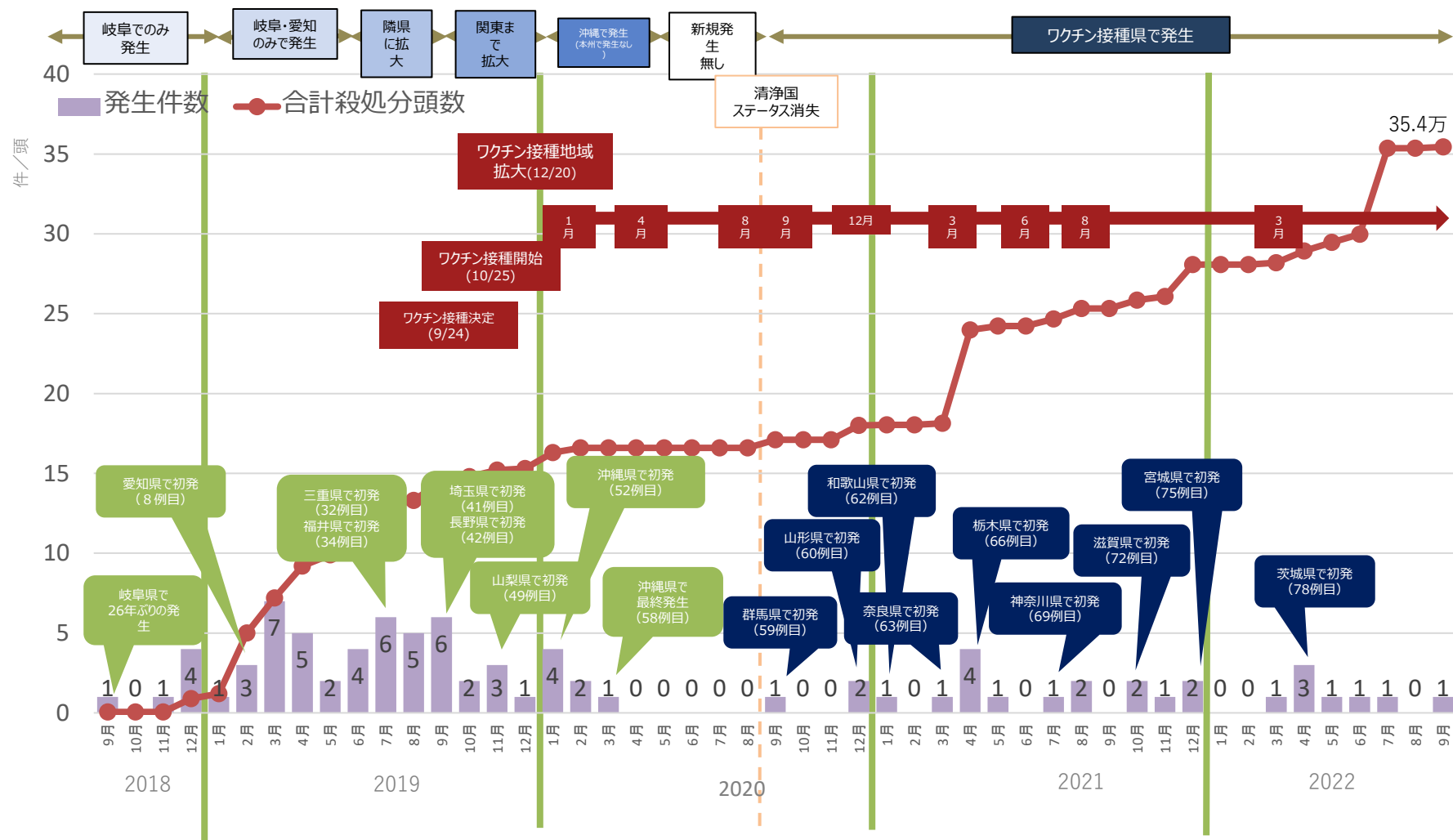
1. 発生畜舎内の感染状況例
2. 発生農場内の感染状況
3. 疫学調査時に撮影した写真
4. 発生農場周囲の野生いのしし状況
5. 疫学調査検討会での提言（概要）



国内における豚熱の発生状況について

豚熱発生経過

- 2018年9月9日の岐阜県での発生以来、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県及び茨城県の17県で計84事例発生し、これまでに約35.4万頭を殺処分。
- 2019年9月24日にワクチン接種を決定、10月15日に防疫指針を改訂、10月25日からワクチン接種開始。
- 2020年9月3日にOIE（国際獣疫事務局）が認定する豚熱の清浄国ステータスを消失。
- 群馬県、山形県、三重県、和歌山県、奈良県、栃木県、山梨県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県といったワクチン接種県においても発生。



1. 発生畜舎内の感染状況例

【令和3年12月7日第16回拡大豚熱疫学調査チーム疫学検討結果より】

事例	検体採取時 日 齢	ワクチン 接種日 齢	接種後 日 数	PCR陽性/ 検査数	備考
74例目	41～48日 齢	32～42日	6日、9日	4/10	発生房
	29～40日 齢	30日以降（一部未接種）	6日	2/10	症状あり
	29～34日 齢	28日以降（一部未接種）	6日	6/10	症状あり
	28～29日 齢	未接種	—	5/10	活力あり
	70～83日 齢	34～47日 齢	36日	0/10	活力あり
	72～80日 齢	36～44日 齢	36日	1/10	活力あり
73例目	48～57日 齢	42～51日 齢	6日	5/15	症状あり
	43～48日 齢	37～42日 齢	6日	10/15	発生房
	34～43日 齢	28～37日 齢	6日	12/15	症状あり
	27～33日 齢	未接種	—	2/15	症状あり

2. 発生農場内の感染状況

【ワクチン接種農場で発生した59例目以降の疫学検討結果(公表)より】

事例	発生畜舎(ワクチン)	感染畜舎/総畜舎数 (発生畜舎を除く)※
59例目	離乳舎	2/19
60例目	肥育舎(未)	1/1
61例目	離乳育成舎	7/22
62例目	育成・肥育豚舎	1/5
63例目	離乳舎	2/7
64例目	離乳舎、肥育舎	0/16
65例目	離乳舎×2	1/24
66例目	離乳舎	6/14
67例目	離乳舎	5/31
68例目	離乳舎	2/20
69例目	離乳舎(未)	9/17
70例目	離乳舎	0/12

事例	発生畜舎(ワクチン)	感染畜舎/総畜舎数 (発生畜舎を除く)※
71例目	離乳舎	0/11
72例目	離乳舎(一部未)	4/6
73例目	離乳舎	0/13
74例目	離乳舎	1/7
75例目	肥育舎	0/4
76例目	離乳舎(一部未)	0/10
77例目	離乳舎(一部未)	0/5
78例目	分娩舎(離乳豚)(未)	1/3
79例目	分娩舎(離乳豚)	5/7
80例目	離乳舎(一部未)	3/19
81例目	離乳舎	3/4
82例目	分娩舎(離乳豚)(一部未)	5/9

2-2. 豚熱発生農場における環境検査結果

【令和4年8月3日第17回拡大豚熱疫学調査チーム疫学検討結果より】

	豚舎内				農場内施設		資材等		
	床・壁等	飼料	水飲場	糞便	堆肥置場	その他 倉庫 農場内通 路等	衣服・長靴	一輪車 車両等	小動物 (ネズミ糞 等)
PCR陽性事 例数/ サンプリン グした事例 数	48/79	22/62	3/30	12/32	6/39	3/39	11/57	9/59	6/41
陽性率	60%	36%	10%	38%	15%	8%	19%	15%	15%

3. 疫学調査時に撮影した写真

1. 衛生管理区域への野生動物の侵入防止(基準23)
2. 畜舎ごとの専用の衣服及び靴の設置並びに使用(基準26)
3. 畜舎外での病原体による汚染防止(基準28)
4. 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置(基準29)
5. ねずみ及び害虫の駆除(基準31)